

令和4年度 広島県病害虫発生予察情報 予報第7号（水稻）

令和4年8月10日発表（対象期間：令和4年8月上旬～8月下旬）



1-（1）

水稻病害虫の現況と予報（概要）

病害虫名		現況	予報	防除上の注意事項
穂いもち	中生			出穂前後の降雨により、穂いもちの発生が助長されます。穂ばらみ期、穂ぞろい期の穂いもちの基幹防除を徹底しましょう。
紋枯病	中生			- 高温多湿の条件で発病が増加するので、注意が必要です。 - 昨年、発生が多かったほ場では特に注意が必要です。 - 防除を行う判断の目安は、穂ばらみ期の発病株率が、早生品種で10%以上、中生品種で20%以上になった時です。 - 防除対策は、令和4年度病害虫発生予察情報技術情報第2号を参照下さい。
セジロウンカ				- 通常、出穂後の防除は必要ありません。 - 要防除水準；幼穂形成期から穂ばらみ期に10頭/株以上
トビイロウンカ				- 中生品種で、長期残効型箱施用剤（トリフルメゾピリム含有）を処理していない場合、ほ場での発生を確認し、発生が見られた場合は防除を行いましょう。 - トビイロウンカの幼虫は、株元に多く点在するため、粉剤や液剤により防除を行う場合は、薬剤が株元に十分届くよう散布しましょう。 - 要防除水準：飛来後第2世代幼虫5頭/株以上
斑点米カメムシ類				- 防除適期を逸さないようにしましょう。 カスミカメ類：出穂期～その10日後に1～2回。 その他加害種：出穂7日後～14日後に1～2回。 - 出穂期近くになっての畦畔などの除草は、カメムシ類を水田内に追い込むことになります。出穂2週間前までに除草を終えましょう。

① 穂いもち（中生）

現況 ||| 予報

予報の根拠

- 8月上旬巡回調査では、中生品種で穂いもちの発生地点率が30.8%（平年55.6%）で、過去10年で3番目に低くなっています（-）。
- 中国地方1か月予報では晴れの日が多く気温が高いため、いもち病の発生を抑制します（-）。

やや少



（葉いもち）

やや少



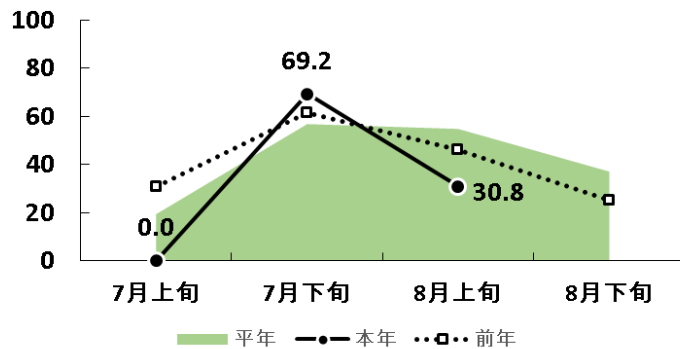
【防除上の注意事項】

- 出穂前後の降雨により、穂いもちの発生が助長されます。穂ばらみ期、穂ぞろい期の穂いもちの基幹防除を徹底しましょう。
- にわか雨が多い場合は病勢が急激に進展するため、ほ場を見回り、穂いもちの多発が見られたほ場では直ちに防除しましょう。
- 穂いもちが多発しているほ場では、穂ぞろい期防除の7～10日後に追加防除を行いましょう。
- 以下の「ひろしま病害虫情報 病害虫図鑑（普通作物）」もご覧下さい。

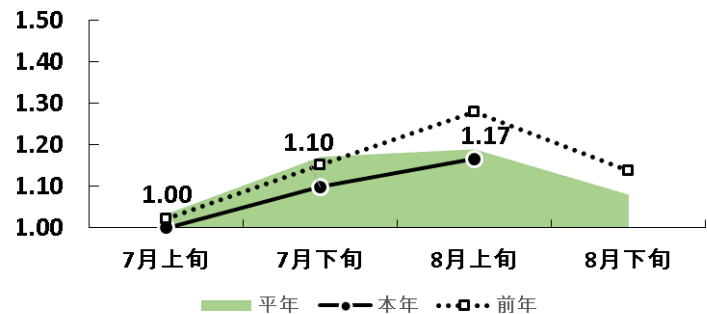
<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/futsuusaku.html>

【巡回調査データ(穂いもち)】

穂いもち 発生地点率(中生 13地点)



穂いもち 発生程度(中生 13地点)



穂いもち



穂首部分（拡大）

② 紋枯病

現況

予報

予報の根拠

- 8月上旬巡回調査では、発生地点率は51.9%（平成34.8%）で過去10年で3番目に高くなっています（+）
- 中国地方1か月予報では、気温が高く、紋枯病の発生を助長します（+）。

やや多



多



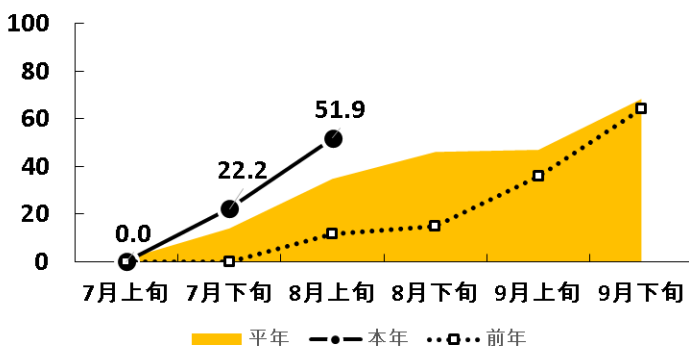
【防除上の注意事項】

- 詳細は令和4年度病害虫発生予察情報技術情報第2号を参照下さい。
- 高温、多湿条件で紋枯病の発生は増加します。夏期高温や降雨や曇天が続くことが予想されるときは発生に注意しましょう。
- 薬剤防除は病斑が上位葉鞘に進展してくる穂ばらみ期～出穂期が適期となります。要防除水準を超える場合は必ず防除をしましょう。薬剤（バリダマイシン等）は、病斑のある株元の葉鞘によく付着するよう散布しましょう。
- 要防除水準：穂ばらみ期の発病株率が、早生品種で10%以上、中生品種で20%以上。

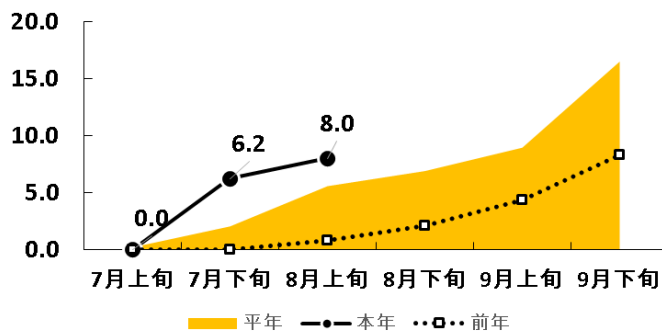


【巡回調査データ】

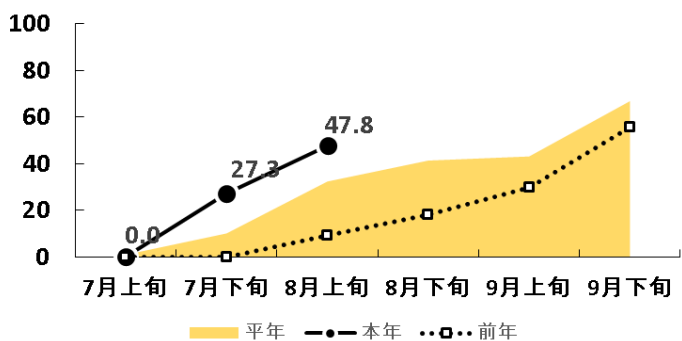
紋枯病 発生地点率(県全域27地点)



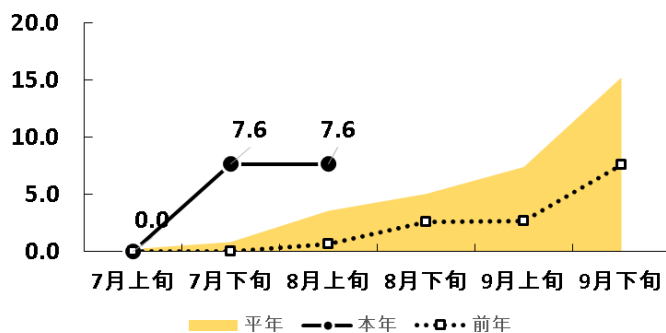
紋枯病 発生株率(県全域27地点)



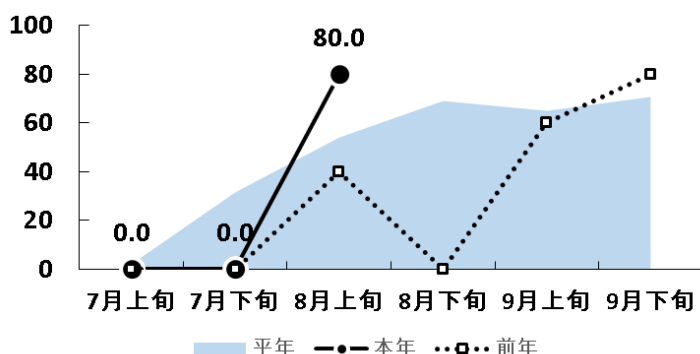
紋枯病 発生地点率(中北部 22地点)



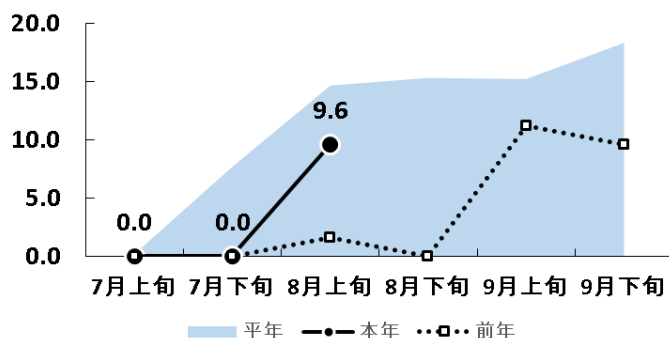
紋枯病 発生株率(中北部 22地点)



紋枯病 発生地点率(南部5地点)



紋枯病 発生株率(南部5地点)



③ セジロウンカ

現況 ||| 予報

予報の根拠

- 8月上旬巡回調査では、少発生でした（－）。
- 予察田（呉市）では、100株当たり虫数が8月1半旬に120頭（平年462頭）、2半旬に18頭（平年731頭）確認されました（－）。
- 中国地方1か月予報では、気温が高く増殖に好適です（＋）。

少



少

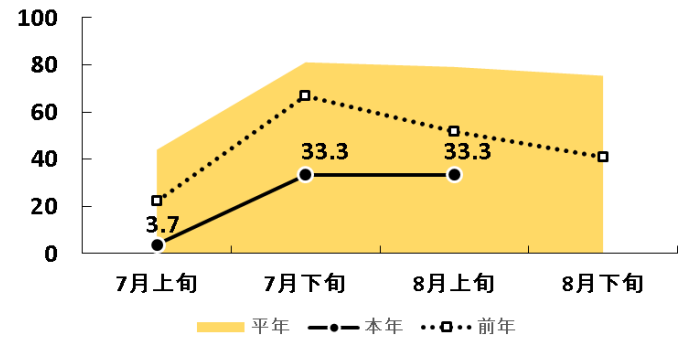


【防除上の注意事項】

- イネをよく観察して、飛来した成虫の早期発見に努めましょう。ウンカ類の払落し調査方法については、「ひろしま病害虫情報」の「調査の方法」をご覧ください。
- 通常、出穂後は水田から移動するため防除は必要ありません。
- 要防除水準：幼穂形成期から穂ばらみ期に10頭/株以上

【巡回調査データ】

セジロウンカ 発生地点率(県全域 27地点)



長翅型成虫



中老齢幼虫

④ トビイロウンカ

現況 ||| 予報

予報の根拠

- 8月上旬巡回調査では、発生は確認されませんでした（±）。
- 予察灯、予察田（呉市）では確認されませんでした（－）。
- 予察田（東広島市）では8月8日に老齢幼虫が100株当たり虫数で16頭確認されました（＋）。
- 中国地方1か月予報では、気温が高く増殖に好適です（＋）。

並



並

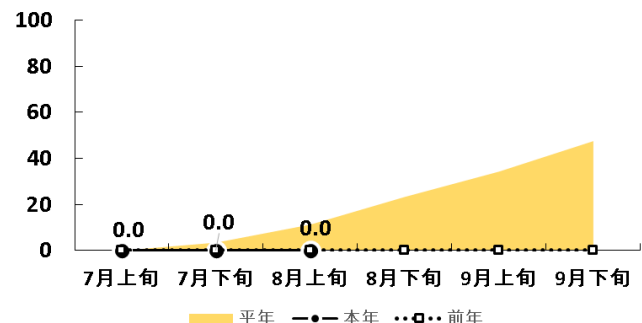


【防除上の注意事項】

- 中生品種で、長期残効型箱施用剤（トリフルメゾピリム含有）を処理していない場合、ほ場での発生を確認し、発生が見られた場合は防除を行いましょう。
- トビイロウンカは、卵や成虫に対する薬剤効果が低いため、幼虫発生盛期（8月6半旬～9月1半旬）が防除適期となります。
- トビイロウンカの幼虫は、株元に多く点在するため、粉剤や液剤により防除を行う場合は、薬剤が株元に十分届くよう散布しましょう。
- 要防除水準：飛来後第2世代幼虫5頭/株以上
- ウンカ類の払落し調査方法については、「ひろしま病害虫情報」の「調査の方法」をご覧ください。

【巡回調査データ】

トビイロウンカ 発生地点率(県全域 27地点)



長翅型成虫



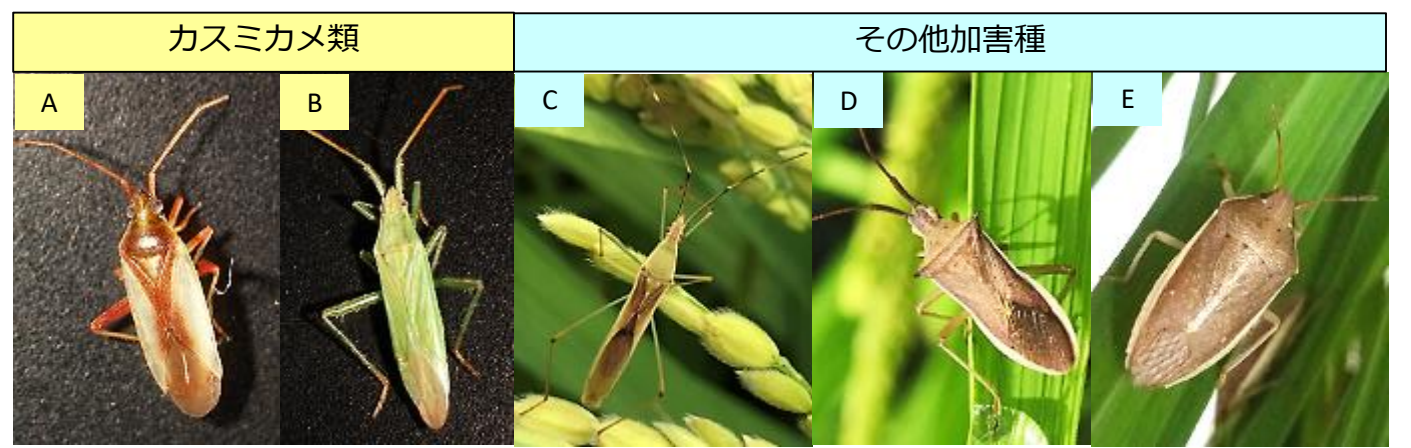
短翅型成虫



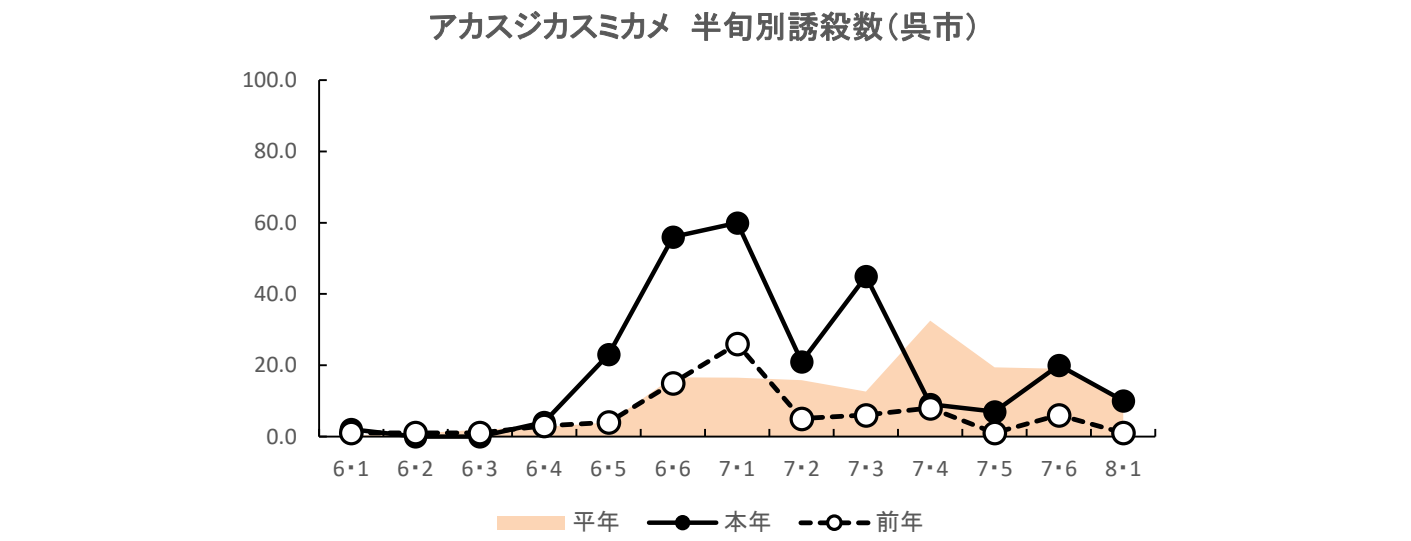
中老齢幼虫

⑤ 斑点米カメムシ類		現況	予報
予報の根拠	● 8月上旬の早生品種本田すくい取り調査における要防除水準を超えるほ場の割合は35.5%（31地点中11地点）でした（+）。 ● イネカメムシの8月上旬の早生品種本田すくい取り調査における発生地点率は19%（31地点中6地点）でした。 ● アカスジカスミカメの8月1半旬までの予察灯（呉市）への累積誘殺数は259頭（平年154.1頭）となっており、過去10年で4番目に高くなっています（±）。 ● 中国地方1か月予報では、気温が高く増殖に好適です（+）。		
(+) : 多発要因 (±) : 平年並 (-) : 少発要因			

- 【防除上の注意事項】**
- 斑点米被害は、カメムシ類の成虫または幼虫がイネの出穂期以降に穂を吸汁し、吸汁痕が褐変して玄米表面に斑紋をつくることで起きます。したがって、防除の目的は出穂期以降のカメムシ類の密度低下にあります。但し、近年沿岸地域を中心に発生・被害が拡大しているイネカメムシについては、穂ばらみ期の水田に侵入することが確認されており、多発時には出穂前の防除も実施しましょう。
 - 出穂期近くになっての畦畔などの除草は、カメムシ類を水田内に追い込むことになります。出穂2週間前までに除草を終えましょう。
 - 要防除水準：（カスミカメ類）4頭以上／20回振り、（その他加害種）2頭以上／20回振り
 - 防除時期：（カスミカメ類）出穂期～その10日後に1～2回。
（その他加害種）出穂7日後～14日後に 1～2回。
※イネカメムシは出穂期とその10日後に防除することが効果があると言われています。
 - 斑点米カメムシ類の調査方法については、「ひろしま病害虫情報」の「調査の方法」をご覧ください。



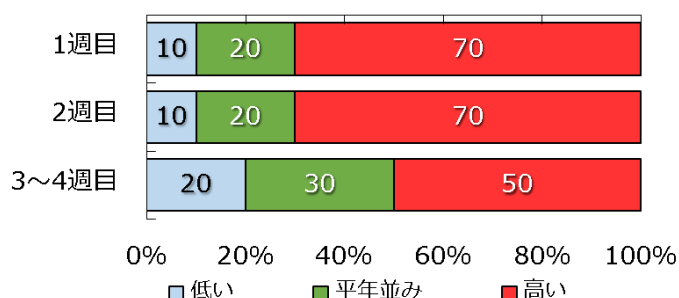
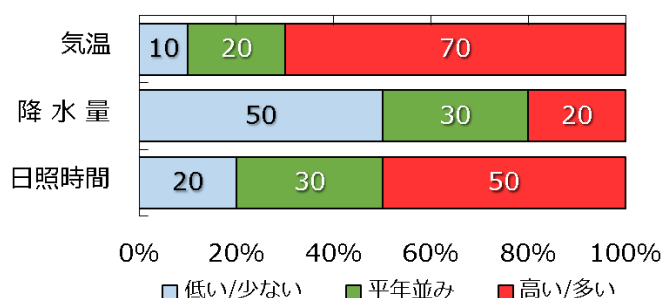
A: アカスジカスミカメ, B: フタトゲムギカスミカメ, その他加害種C: クモヘリカメムシ, D: ホソハリカメムシ, E: イネカメムシ



病害虫名	現況	防除状の注意事項
稲こうじ病	—	詳細は、令和4年度病害虫発生予察情報技術情報第2号を参照下さい。
ヒメトビウンカ	少 	出穂前後の防除を徹底して下さい。また、縞葉枯病を発病した株は抜き取りましょう。
フタオビコヤガ	やや少 	穂ばらみ期防除を基本に実施しましょう。
コブノメイガ	少 	中生以降の品種で被害株率20%を超える場合、粉剤・液剤は発蛾最盛期の7日後、粒剤は発蛾最盛期に追加で防除を行いましょう

(広島地方気象台8月4日発表、8月6日から9月5日までの天候見通し)

- 期間の前半は、気温がかなり高くなる可能性があります。
- 向こう1か月の平均気温は、高い確率70%です。降水量は、少ない確率50%です。日照時間は、多い確率50%です。
- 週別の気温は、1週目と2週目は高い確率70%です。3～4週目は高い確率50%です。



6月1日から8月31日まで、**農薬危害防止運動**実施中！
農薬を使う際は、容器のラベルをよく読んで、使用方法や注意事項を守り、農薬による危害と事故を防ぎましょう。





詳しくは、以下の「ひろしま病虫害情報 地帯区分」をご覧ください。

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/yosatsu-joho0.html>

【現況・予報の区分について】

「現況」「予報」は、「多、やや多、並、やや少、少」の5階級に区分しています。区分は、原則として過去10年間の同時期の調査結果の数値を発生が多かった順に並べ、相対比較しています。

「多」	: 1 番目（最多年）と同程度以上
「やや多」	: 2～3 番目と同程度
「並」	: 4～7 番目と同程度
「やや少」	: 8～9 番目と同程度
「少」	: 10 番目（最少年）と同程度以下



●PCでアクセス

ひろしま病虫害情報

検索

掲載アドレス↓

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/>

ホームページ
リニューアル！



●スマホでアクセス

ひろしま病虫害情報

QRコードはこちら →



お問い合わせ先

広島県西部農業技術指導所 植物防疫チーム

〒739-0151 東広島市八本松町原6869

電話：082-420-9662（直通）